

**AIFA U-13中学校サッカー選手権大会2019 名古屋 審判割**

※ 審判をする上で、以下のことに注意してください。

- ・審判を割り当てられているチームで主審(1名)・副審(2名)を担当すること。主審は必ず有資格者が担当すること。
- ・副審は選手可(ルールに詳しい者、有資格者が望ましい。準々決勝は選手不可、有資格者のみ)
- ・主審・副審の割り当ては審判担当チーム同士で事前に話し合っておくこと。
- ・会場担当チームは第4の審判員を担当するため、会場担当チームと対戦するチームは主審を担当すること。
- ・主審は審判服を着用すること。(副審もできる限り審判服を着用すること。)

12月7日(土)大高、高針台、御田、猪高、富田、当知  
 12月8日(日)中川学体、日比野、南陽、山田、名古屋、守山東、大森、楠  
 12月14日(土)中川学体、天白学体、大高、日比野、平田学体、高針台、御田、南陽  
 12月15日(日)中川学体、天白学体、大高、日比野

12月7日(土)平田学体  
 12月8日(日)天白学体

	第1試合	第2試合
審判	第2試合のチーム	第1試合のチーム

	第1試合	第2試合	第3試合
審判	第3試合のチーム	第1試合のチーム	第2試合のチーム

※ 中川学校体育センター(B)、天日学校体育センター(C)、平田学校体育センター(F)は②の10:30が、名古屋(N)は⑦の11:00が第1試合です。  
 試合開始時間が異なりますので、注意してください。

1月11日(土)準々決勝(副審は選手不可、有資格者のみ) テラスポ鶴舞イースト							
	主審	第1副審	第2副審		主審	第1副審	第2副審
①9:30	協会派遣	第2試合のチーム	第2試合のチーム	③12:30	協会派遣	第4試合のチーム	第4試合のチーム
②11:00	協会派遣	第1試合のチーム	第1試合のチーム	④14:00	協会派遣	第3試合のチーム	第3試合のチーム

1月12日(日)準決勝・決勝 テラスポ鶴舞				
テラスポ鶴舞イースト				
	主審	副審1	副審2	第4審
準決勝① 9:30	協会派遣	協会派遣	協会派遣	協会派遣
テラスポ鶴舞ウエスト				
	主審	副審1	副審2	第4審
準決勝② 9:30	協会派遣	協会派遣	協会派遣	協会派遣
テラスポ鶴舞ウエスト				
	主審	副審1	副審2	第4審
決勝 13:00	協会派遣	協会派遣	協会派遣	協会派遣

**会場使用について(総会資料より)**

- (1) ベンチ及びその周辺には、監督・コーチ・登録選手以外の者(登録外選手や保護者など)が入らないように、チームで徹底してください。
- (2) ゴミは各チームで必ず持ち帰り、監督責任者で更衣場所の点検を行ってください。(会場付近についても同様)
- (3) スパイクなどについて土や泥は必ずグラウンドで落とさせ、更衣場所を汚さないようにしてください。やむを得ず汚れた場合には、掃除をして帰るようにしてください。
- (4) 器物破損が生じた場合は、必ず会場責任者に報告し、指示に従ってください。
- (5) 会場への問い合わせはしないでください。また、保護者の車の乗り入れ、会場付近の路上駐車はやめてください。各会場への自家用車の乗り入れには、指定駐車券(監督用)の提示が必要になります。
- (6) 学校・学校体育センター敷地内は禁煙です。また、会場周辺で喫煙の際も吸い殻の始末をしてください。
- (7) 学校体育センターは9時以前に集合させないでください。また、周辺の公園で集合したり、アップ等の活動をしったりしないでください。

**審判について**

レフェリーは、ルールが尊重され、試合に関わる全員がサッカーを楽しめるように、選手がプレーに集中できる環境作りを助けるための存在です。安全と公平性が保障された試合となるように、ゲームコントロールに励んでください。

(1) 競技規則(ルールブック)をよく読みましょう。  
 昨年度、競技規則が大幅に改訂されました。試合中に気になったことや疑問に思ったことなど、ぜひ競技規則で確認しましょう。  
 競技規則で特にチームに指導していただきたいこと、レフェリーとして特に留意して、適用ミスのないようにしていただきたいことは以下になります。

- ① リスタート
    - ・キックでプレーを開始・再開する場合は、ボールを(静止後に)明らかに動かす。
    - ・キックオフはどの方向にボールをけても良い。また、キックオフを行う競技者を除いて、すべての競技者はフィールドの自分たちのハーフ内にいなければならない。
  - ② オフサイド
    - ・反則が起きた場所からプレーを再開する。(副審は、フラッグアップするまで、ボールを追うことを止めない意識に改める必要がある)
    - ・主審が再開場所を決定する。副審は、主審との確認がとれた後、すぐにオフサイドラインにポジションをとる。
  - ③ ペナルティキックとPK方式
    - ・キックフェイントは最も罰すべき行為である。(警告→相手の間接FK)
    - ・ゴールキーパーがキック前に前方に飛び出したことによりゴールを阻止した場合、警告となる。(PK方式中に2度繰り返して退場になる場合もある)
    - ・PK方式では、主審のコイントスにより、キックするゴールを決める。(PK方式前に2度コイントスをするようになる)
    - ・PK方式中でも両チームの競技者の数は同数にする。(キッカーを外れた競技者はベンチに退く)
  - ④ 競技者の用具
    - ・試合中に用具を交換したり、修正したりするためにフィールドを出た後、主審の承認を得れば、インプレー中でもプレーに復帰することが可能である。
  - (2) 起きた現象(ファウル)をよく見ましょう。
    - ・レフェリーとして、争点がよく見えるポジションに立ちましょう。  
 (争点=選手同士が接触する点が見える位置に角度を合わせるために、サイドステップなどを使いましょう)
    - ・感覚的に決めつけずに、起きた現象(ファウル)をよく見て、急がずに判定しましょう。
  - (3) 戦える(タフな)選手を育てましょう。
    - ・プレーオンを活用し、手や腕を不正使用した些細なファウルを受けても、もう1プレーがんばることができるように選手を育てましょう。
    - ・激しくタフなプレーは認め、シャツを引っ張るなどの些細でも悪意あるプレーには厳しく対処しましょう。
    - ・新しいチャージでの当たり負けをファウルとしない。ボールにチャレンジせず、相手のプレーを妨げようとするファウルを見逃さない。
- 試合前の審判員同士の打合せや、試合後の意見交換などを積極的に行い、指導者同士だけでなく、選手や保護者ともルールの理解と共通認識をさらに深めていただきますよう、よろしくお願いたします。